

P1-394 植物発酵食品投与による胎児発育不全の改善, 出生後の体重増加および血中ビリルビン値への影響について

石川・恵寿総合病院
小濱隆文, 小林寛人

【目的】妊娠・授乳期における母体への植物発酵食品投与が児の発育促進・改善を促すことが、畜産領域も含め近年注目されてきている。今回、果実・根菜・穀類などの複数植物を発酵させた万田酵素® (M) を、high risk 妊娠以外の子宮内胎児発育不全 (IUGR) の妊婦に投与し、胎児発育、出生後の児の体重増加及び血中総ビリルビン値 (S-Bil) への影響を検討した。【方法】平成 10 年度の当院妊婦外来において、妊娠 28 週以降 2 週間おき、36 週以降 1 週間おきに超音波にて胎児推定体重を測定し、胎児発育曲線の -1.5SD を 2 度続けて下回った非 high risk 妊婦に対し、M の投与趣旨・安全性を説明し同意を得た後、5g/日投与開始し出産まで継続させた (M 群)。対照群 (C 群) は他年度の同様の発育曲線を有する妊婦とし、胎児発育曲線、児の出産時一般所見、産後 3 日目の S-Bil および生後一か月間の体重増加量について比較・検討した。【成績】M 群は 44 例 (412 例中) で、M 投与後の発育曲線改善例は 29 例、出生時体重 $2,735 \pm 320$ g (mean \pm sd) (2,500g 未満は 12 例)、C 群は 63 例 (421 例中) で、28 週以降の発育曲線改善例は 20 例、出生時体重 $2,452 \pm 266$ g (2,500g 未満は 27 例) であり、いずれも M 投与による有意な改善が認められた ($p < 0.05$)。M 群および C 群の、出生 3 日後の S-Bil は 10.01 ± 1.12 mg/dl と 10.91 ± 1.88 mg/dl で M 投与による有意な低下、また出生後 1 カ月間の体重増加量は、 $1,154 \pm 230$ g/月と $1,023 \pm 299$ g/月で M 投与による有意な増加が認められた ($p < 0.05$)。その他の出産時一般所見に差は認められなかった。【結論】M 投与は、IUGR を改善させ、出生後の高ビリルビン血症の予防、体重増加の促進を促すことが示唆された。

P1-395 コーヒー摂取による、母体のストレス軽減効果および胎児胎盤系の血流に与える影響について

大阪大¹, 同環境医学²

坪内弘明¹, 下屋浩一郎¹, 沖代奈央¹, 古元淑子¹, 林 周作¹, 福井 温¹, 天満久美子¹, 福田裕償¹, 早田憲司¹, 戸田雅裕², 森本兼襄², 村田雄二¹

【目的】通常量のコーヒー摂取が妊娠に与える影響については、いまだ確立されたものはない。そこで、通常量のコーヒー摂取による母体のストレス軽減効果と、胎児胎盤系の血流に与える影響について測定することを目的とした。【方法】十分なインフォームドコンセントのうえ、10 人の妊婦に 150ml のコーヒーを摂取してもらい、摂取前と摂取 30 分後に、経腹超音波ドップラー検査にて子宮動脈・臍帯動脈・胎児中大脳動脈の RI を計測した。また母体ストレスレベルの変化を定量的に評価するために、コーヒー摂取前後で、母体唾液中のコルチゾール及びクロモグラニン A (カテコールアミンの貯蔵に關与する蛋白質) を測定した。コントロールとして、非妊娠女性 14 人においても同様の検査を施行し、ストレスレベルの変化を比較した。【成績】母体子宮動脈・臍帯動脈・胎児中大脳動脈の RI は、コーヒー摂取前後にいずれも有意な変化を認めなかった。唾液中の平均コルチゾールは、妊婦で 0.41 ± 0.07 μg/dl、非妊娠女性で 0.29 ± 0.08 μg/dl と、妊婦のほうが高値であったが有意差は認めなかった。コーヒー摂取 30 分後の平均コルチゾールは、非妊娠女性で 0.25 ± 0.06 μg/dl とコーヒー摂取前と比べて有意差は無かったが、妊婦では 0.33 ± 0.07 μg/dl と、有意に低下した。 ($p < 0.05$) クロモグラニン A は、コーヒー摂取 30 分後、非妊娠女性のみ有意に上昇し、妊婦では有意差が無かった。【結論】通常量のコーヒー摂取では、短期的には胎児胎盤系の血流に影響を与えることは無く、そのリラクゼーション効果により、母体のストレスを軽減させられる可能性が示唆された。

P1-396 葉酸は神経管閉鎖障害の発生リスクを低減する～妊婦の意識調査～

小牧市民病院

椎名綾子, 高橋典子, 佐野美保, 森川重彦, 下須賀洋一

【目的】2000 年旧厚生省は、1 日最低 400μg の葉酸摂取で神経管閉鎖障害の発生リスクが低減すること、妊娠可能年齢の女性にはその情報提供をするよう勧告文を出した。しかしこの情報を承知し、葉酸を内服している妊婦の数は不明である。今回我々は 13 病院の協力のもとアンケートを施行、葉酸情報に関する妊婦の意識を調査、検討した。【方法】2002 年は前年出産した経産婦に、2003 年は産婦人科外来を訪れた妊婦にアンケートを施行。【成績】2002 年 1,692 名中 770 名 (46%) 回収。2003 年 2,020 名中 818 名 (40%) 回収。葉酸の重要性を知っていたのは 02 年 118 名 (15%) 03 年 196 名 (24%) 葉酸摂取者は 02 年 70 名 (9%) 03 年 128 名 (16%) 栄養バランスに留意した食事を心掛けていたのは 02 年 667 名 (84%) 03 年 567 名 (69%) 03 年の非摂取者 690 名 (84%) のうち、今回のアンケートで葉酸の重要性を知り直ちに摂取すると回答したのは 38% であり、21% は次の妊娠で摂取する、30% は摂取しないと回答。同時に調査した喫煙、飲酒に関しては喫煙者 02 年 52 名 (7%) 03 年 47 名 (6%)、飲酒者 02 年 64 名 (8%) 03 年 75 名 (9%) であった。【結論】葉酸の重要性が公表されてから 3 年経つが、葉酸情報を承知している妊婦は増加傾向ではあるもののいまだ低率でありこの知識普及が必要である。今後は妊娠可能期の女性にはバランスの取れた食事摂取、禁煙、禁酒を励行すると同時に葉酸摂取について指導したい。